

令和３年度進行管理・評価シート
向日市歴史的風致維持向上計画（平成27年2月23日認定）
（最終変更 令和2年5月14日）

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)	
1 向日市歴史的風致維持向上協議会の開催	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)	
1 景観法、屋外広告物法に基づく連携	2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)	
1 史跡長岡宮跡保存活用事業	3
2 竹の径景観保全事業	4
3 桜の径景観保全事業	5
4 長岡宮跡周辺道路美装化事業	6
5 歴史文化交流拠点整備事業	7
6 情報案内板設置事業	8
7 長岡京・平安京連携事業	9
8 長岡京広報・PR事業	10
9 向日市文化資料館企画展示実施事業	11
10 歴史資源調査活用事業	12
11 市民歴史活動連携事業	13
12 地域歴史ボランティア養成事業	14
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)	
1 文化財調査、指定、保存管理(活用)に関すること	15
2 文化財の修理事業、文化財の周辺環境整備事業、 文化財の防災に関すること	16
3 文化財に関する普及・啓発の取組、民間団体への 助成・支援や連携・協力した取組みに関すること	17
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)	19

□法定協議会等におけるコメントシート(様式2)	20
-------------------------------	----

評価軸①-1
組織体制

項目		評価対象年度	令和3年度
			現在の状況
向日市歴史的風致維持向上協議会の開催			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	「向日市歴史的風致維持向上協議会」は、事務局と連携し、計画の実施に関する連絡・調整を行う。 本計画の実現に向けて、ふるさと創生推進部企画広報課、建設部都市計画課及び教育部文化財調査事務所が事務局となり、庁内関係各課で組織されている「向日市歴史まちづくり庁内推進会議」において、計画推進のための庁内の連絡・調整を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
学識経験者、地元関係団体、行政(国、府、市)により構成される「向日市歴史的風致維持向上協議会」委員から歴史的風致維持向上に資する事業内容について意見を聴取した。なお、本意見聴取は、新型コロナウイルスによる情勢を鑑み、書面で行うことで法定協議会の開催に替えた。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
令和4年2月16日(水) 令和3年度第1回向日市歴史的風致維持向上協議会開催 【内容】(1)向日市歴史的風致維持向上計画の進行管理・評価について (2)令和4年度実施予定事業の主なものについて			
			
令和3年度第1回向日市歴史的風致維持向上協議会の様子			

評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

項目		評価対象年度	令和3年度
			現在の状況
景観法に基づく連携 屋外広告物法に基づく連携			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	景観計画の策定の中で、景観計画区域を市域全域に位置付け、本市の特徴を「歴史的景観」「自然的景観」「市街地景観」の3つに分類し、それぞれの地域特徴に応じた景観形成に努めることとしている。 このうち特に、向日丘陵の自然景観、向日神社や西国街道沿いの歴史的景観、阪急西向日駅周辺の良好な低層住宅地景観などは本市として守っていき、また、良好な景観を形成していくべき地区であることから、「景観重点地区候補地」に位置付けることを検討している。 なお、景観計画は、この歴史的風致維持向上計画の内容を反映したものとし、歴史的風致の維持向上にも期するものとする。 また、屋外広告物は、景観に対する影響が大きいことから、景観計画の中で、屋外広告物に対する考え方を整理し、向日市らしい屋外広告物の施策を調査・研究することとしている。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
歴史的風致維持向上計画との整合においては、地域特性に応じた規制誘導が必要である。 しかし、地域特性に応じた規制誘導については、地域住民の協力・理解が必要不可欠である。 そのため、地域住民との合意形成を図りながら規制誘導を定める手法として、都市計画法に基づく地区計画制度の活用が重要となる。 今年度においては、市街地開発事業(土地区画整理事業等)による新たなまちづくりに併せ、良好な都市環境の形成を目的に、建築物等の形態・意匠・色彩等及び屋外広告物について都市景観に配慮する事項を含めた地区計画(阪急洛西口駅西地区地区計画)を都市計画決定している。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		歴史的風致維持向上計画と整合を図るためには、地区計画制度の成功事例を1つ1つ積み重ね、各地域に地区計画制度を浸透させ、地域住民が主体となった地域特性に応じた規制誘導が必要となる。本市では、市街地開発事業による新たなまちづくりに付随して良好な都市環境・都市景観を形成するため、阪急洛西口駅東地区などの地区計画を都市計画に定めているが、既存住宅地で地区計画を定めた事例はない。このことから、良好な景観の形成・保全に意欲のある地域の取組を促進するため、引き続き、まちづくり条例に基づく支援を図る必要がある。 現在、JR向日町駅東口開設に関連した周辺整備やJR向日町駅東側の森本東部地区及び、阪急洛西口駅西地区における新たなまちづくりなど、まちの構造が大きく変化する事業が進められていることから、それら主要事業との調整を図る必要も生じている。 また、府営住宅建替に伴う向日台地区のまちづくりにおいて、景観はもとより眺望にも配慮した地区計画を都市計画に定める手続きを進めている。	
状況を示す写真や資料等			

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和3年度 現在の状況
史跡長岡宮跡保存活用事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 昭和56年度～令和6年度

支援事業名 文化財保存整備費(歴史活き活き史跡等総合活用整備事業、史跡等購入費国庫補助金等)
社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)

計画に記載している内容 長岡宮跡の一体的な保存整備と活用促進を目的に、史跡の拡充・拡大と公有化を図るとともに、目に見えない史跡をより体感できるよう遺跡表示などの整備を行う。整備に際しては、文化庁や京都府教育委員会など関係機関と十分に協議し、調整を図り、地下遺構や史跡景観を損なわないよう実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成28年度に史跡長岡宮跡として追加指定を受け、同年に買い上げた、長岡宮内裏内郭築地回廊及び外郭築地を国登録有形文化財旧上田家住宅と一体的に整備し、史跡長岡宮跡朝堂院公園と同様に案内員や会計年度任用職員を配置するなど、活用の促進を図った。

【史跡長岡宮跡】

史跡指定面積 15,714.52㎡
 公有化面積 13,406.57㎡ / 公有化率 85.31%
 整備面積 12,030.01㎡ / 整備化率 77.60%

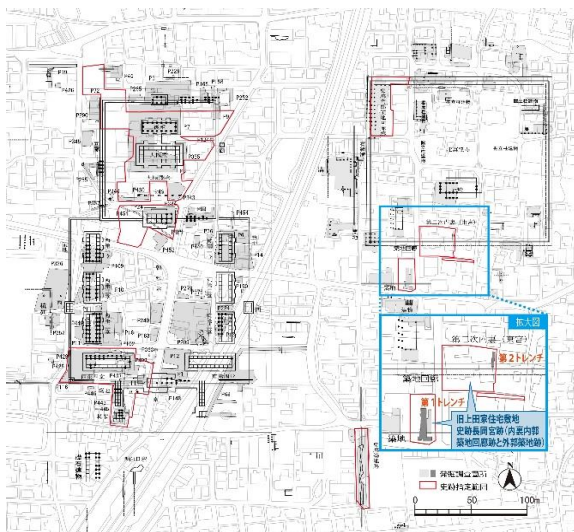
進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

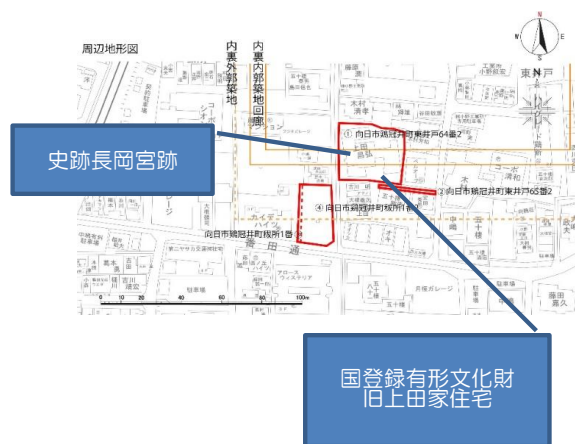
■計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

引き続き、大極殿跡、朝堂院跡、内裏跡を含めた史跡長岡宮跡の拡充・拡大と保全整備を実施し、地域の歴史・文化資源や公共施設、交通機関等を連結するネットワーク化を図るなど活用の促進を図る。

状況を示す写真や資料等



史跡長岡宮跡位置関係図

史跡長岡宮跡と国登録有形文化財
旧上田家住宅の位置関係図国登録有形文化財旧上田家住宅敷地内に
整備した史跡長岡宮跡の内裏内郭築地回廊南内裏公園内に整備した
史跡長岡宮跡の内裏外郭築地

評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和3年度 現在の状況
竹の径景観保全事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成12年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	歴史的資源であるタケノコづくりから出る廃材などを利用し、延長約1.8kmに設置された8種類の竹垣の保全改修を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
竹の径に設置されている竹垣の保全改修を行い、周辺環境の保全と回遊性の向上を図ることができた。 整備延長 237.7m予定			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
(整備前)  ➡ (整備後)  竹垣の改修の様子 			

評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

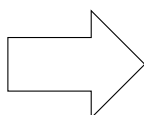
項目		評価対象年度	令和3年度 現在の状況
桜の径景観保全事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和40年代～令和6年度		
支援事業名	平成27年度～平成30年度:社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 令和元年度～令和6年度:市単独事業		
計画に記載している内容	桜の木の成長による根上がりから道路構造物が破損しているため、桜の木の環境にも配慮しながら、安全性の向上、歩車道空間を含めた景観保全のための道路改良や、それらとあわせた樹木の剪定、消毒、古木の伐採や植栽を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
桜並木の剪定や古木の更新を行い、桜の径の景観保全を図ることができた。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

(整備前)



(整備後)



評価軸③-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和3年度 現在の状況
長岡宮跡周辺道路美装化事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成28年度～令和6年度		
支援事業名	向日市:平成28年度～令和2年度 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 京都府:令和2年度～令和6年度 社会資本整備総合交付金(防災・安全交付金(交安)事業) ※向日市歴史的風致維持向上計画の計画期間(令和6年度)満了後も事業継続予定		
計画に記載している内容	史跡長岡宮のそれぞれの遺跡や向日神社などを結ぶ道路について、京都府(府道)と市(市道)で連携、役割分担しながら、公共交通機関である阪急西向日駅から史跡長岡宮跡のそれぞれの遺跡や、向日神社を結ぶ道路の美装化(カラー舗装など)を実施する。 また、併せてカーブミラーや各種標識柱などを統一的な様式で整備する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
令和2年度、令和3年度で道路改良計画を策定した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		道路拡幅を予定しているため、用地買収の進捗が課題となっている。	
状況を示す写真や資料等			

評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和3年度
項目		現在の状況	
歴史文化交流拠点整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成25年度～令和3年度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)		
計画に記載している内容	長岡宮跡周辺地区に対し、地域交流活動の拠点としての機能を向上させるとともに、通年の地域交流活動に使用しやすいよう、空調設備の新設、文化財や市民活動による作品を展示するスペース、ギャラリーなどを整備する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
＜旧上田家住宅保全整備＞ ・長岡宮内裏観光交流センター(史跡長岡宮跡、国登録有形文化財旧上田家住宅)保全整備工事			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		土地を史跡長岡宮跡として整備し、建物を国登録有形文化財旧上田家住宅として整備し活用の促進を図る。	

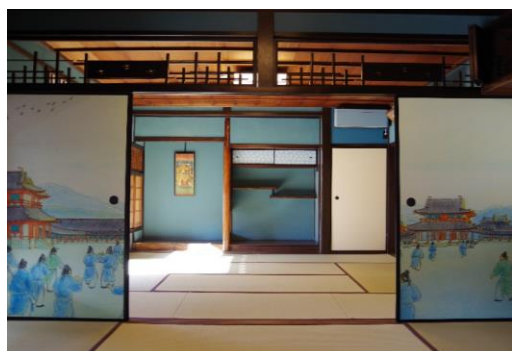
状況を示す写真や資料等



整備工事竣工式



敷地内から主屋を望む



寄付を受けた長岡宮関連絵画のコピー



主屋カマドでの餅つき



案内員による長岡宮跡や旧上田家住宅の解説



内蔵貸ギャラリー展示風景

評価軸③-6

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和3年度
項目		現在の状況	
情報案内板設置事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成23 年度～令和6 年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	車で訪れる来訪者、公共交通機関を利用する来訪者を歴史的資源の場所へ導くための標識を主要な道路などに設置する。駅前や主要な公共施設などに、歴史・文化資源の位置を示した案内板を設置する。主要な史跡、歴史的建築物や行事などの内容を記した説明板を設置する。 なお、インバウンド対応を必要とする設置箇所においては、英語表記等の情報案内板を設置する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
竹の径に設置している案内・解説板の英語表記版を新たに設置した。 新規設置箇所(英語版): 15か所			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
 整備後(全体看板)			
 整備後(個別看板)			

評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

令和3年度		評価対象年度
現在の状況		項目
☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手		長岡京・平安京連携事業
事業期間	平成26年度～令和6年度	
支援事業名	市単独事業	
計画に記載している内容	長岡京の次に、隣接する京都市に平安京が建都されたことから、共通するそれらの歴史や歴史的風致をキーワードとして、京都市と協働で「竹の径・かぐやのタペ」や歴史巡りウォーキングなど効果的なイベント事業を検討し、実施する。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
美しい田園風景や桜や紅葉など京都西山エリア(京都市西京区(洛西)、向日市、長岡京市、大山崎町)の景観の維持や観光地としての魅力向上に取り組む大原野保勝会と連携し、京都市、向日市、長岡京市、大山崎町の3市1町にまたがり、PRを実施することができた。		
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		

状況を示す写真や資料等

PRリーフレット
「京都西山さんぽ 秋の紅葉編」

PRカード



京都西山PR動画

評価軸③-8

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

令和3年度		令和3年度
項目		現在の状況
長岡京広報・PR事業		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手
事業期間	平成27年度～令和6年度	
支援事業名	市単独事業	
計画に記載している内容	長岡京が向日市にあったことを市内外に周知し、認知度を向上するため、長岡宮跡の共通ロゴやPR看板などの作製など、広報PR活動を実施する。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
引き続き、公共交通機関を利用した広報や、ロゴマークを活用したグッズ販売を行うとともに、令和2年度は市公式SNS等においてゆるキャラを活用した市のPRを行い、長岡京が向日市にあったことを市内外に周知することができた。		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない		

状況を示す写真や資料等

【ロゴマーク】



ピンバッジ
(1個300円で販売)



むこうまんじゅう
市内事業者が開発・販売

【公共交通機関を利用した広報】



JR向日町駅看板

【SNSを活用したPR】



市公式Instagramを活用したPR
(向日神社、朝堂院公園、物集女車塚古墳など)

評価軸③-9

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和3年度 現在の状況
向日市文化資料館企画展実施事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間	昭和59年度～令和6年度
支援事業名	令和3年度:文化芸術創造拠点形成事業、芸術文化振興基金助成金
計画に記載している内容	歴史・文化のまちづくりの中核拠点となる文化資料館において、さまざまな時代における歴史・文化の企画展を開催する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

特別展「寿岳文章 人と仕事-向日庵と和紙の旅-」(令和3年9月18日から同年10月24日まで開催)
 令和2年度特別展「寿岳文章人と仕事展」を再構成し、寿岳文章がおおよそ80年前に全国から集めた40種を超える手漉紙を一堂に展覧した。本市の歴史的風致の一つである寿岳家の居宅・向日庵の建物としての文化的価値に加え、向日庵で保管されていた資料を整理し紹介することで、和紙、書物、国際交流など、20世紀の知の巨人・寿岳文章の幅広い業績について、より多くの方々に知ってもらうことができた。また、関連事業として、国際シンポジウム「20世紀の和紙-寿岳文章 人と仕事-」をオンラインで開催し、国内からはNPO法人向日庵理事長で甲南大学名誉教授の中島俊郎氏、兵庫県多可町立杉原紙研究所の山仲進氏が、国外からはアメリカの紙史研究家兼教育者のキャスリーン・A・ベイカー氏、独立研究者、学術編集者兼翻訳者のクレア・クッチオ氏、アーティストで元北米手漉紙協会会長のリン・シュアーズ氏が報告を行った(令和3年10月16日)。国内外から360人の参加があり、今日の和紙の世界的評価に繋がった寿岳文章の業績や和紙文化について、全世界に向けて発信することができた。

特別展「日本画家・六人部暉峰の世界」(令和3年11月6日から同年12月5日まで開催)
 京都府乙訓郡屈指の古社・向日神社の神官を代々務めてきた六人部家に生まれ、竹内栖鳳に入門して日本画家となった六人部暉峰の作品や関係資料を展示した。六人部暉峰の初回顧展であり、画期的な展示として注目され、全国から多くの来場者があった。上村松園と肩を並べて活躍しながらも、表立った活動期間の短さから早期に忘れられ、これまでほとんど知られていなかった六人部暉峰の画業と生涯を掘り起こした本展は、美術史の専門家からも高く評価された。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	

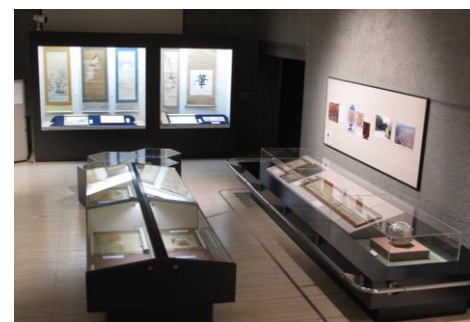
状況を示す写真や資料等



「寿岳文章 人と仕事-向日庵と和紙の旅-」

「寿岳文章 人と仕事-向日庵と和紙の旅-」
展示状況②

「日本画家・六人部暉峰の世界」



「日本画家・六人部暉峰の世界」

評価軸③-10

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和3年度
			現在の状況
歴史資源調査活用事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和59年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	本市に点在する歴史・文化資源を活かしたまちづくりや歴史的風致維持向上計画の推進のため、歴史的風致形成建造物などの歴史・文化資源に関連する現地調査や歴史資料の調査整理を行うとともに、調査結果を活用し、歴史講座の開催や今後のまちづくりへの活用検討などを行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
①広島にある英国の詩人、エドモンド・ブランデンの詩碑「ヒロシマ 1949年8月6日に寄するうた」とこれを翻訳した寿岳文章の交流に焦点をあてたテーマ展示「くらしのなかの戦争展」を開催した。②市内の歴史資料の一部を活用し、市民サークルの自主学習を支援した。③市民サークルの協力により、市民が所蔵する古文書の調査を行った。④新たに導入した収蔵品管理システム及び付属アプリにより、収蔵資料の管理と情報発信を強化した。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			



テーマ展示「くらしのなかの戦争展」展示状況
(令和3年7月31日～9月12日)



市内の歴史資料の一部を活用した市民サークルの自主学習活動風景(令和3年7月10日)



市民所蔵古文書の調査
(令和3年10月19日)



クラウド型収蔵品管理システム
付属アプリ トップ画面

評価軸③-11

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和3年度 現在の状況
市民歴史活動連携事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成24年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	向日市まつりなど本市で開催されるイベントと連携して行われる歴史・文化の市民活動を支援する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
令和3年6月27日(日)に古代衣裳公開研修を開催した。文化資料館で常設展示している長岡京期の貴族・官人衣裳復元の参考となった、正倉院宝物として伝わる奈良時代の衣裳について、講師の古代衣裳研究家が復元した衣裳を研修会場に陳列し、ボランティアが補佐してそれらの衣裳を直接見ながら説明をしていただいた。＜参加者数:28人＞ また、同年12月17日(金)、乙訓商工・観光協議会による観光企画に古代衣裳ボランティアが復元古代衣裳を着用して取材対応し、向日市の歴史や古代衣裳について説明を行った。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等



古代衣裳公開研修
講演会「正倉院宝物衣裳から長岡京期の衣裳を考察する」令和3年6月27日(日)



古代衣裳公開研修
講演会「正倉院宝物衣裳から長岡京期の衣裳を考察する」令和3年6月27日(日)



古代衣裳の製作やメンテナンスを手がける
ボランティアが講演会の説明を補佐



古代衣裳ボランティアが観光企画に取材対応
令和3年12月17日(金)

評価軸③-12

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度		令和3年度
項目		現在の状況
地域歴史ボランティア養成事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成29年度～令和6年度	
支援事業名	平成29年度～平成30年度:社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 令和元年度～令和6年度:市単独事業	
計画に記載している内容	ボランティアとして、本市に多数存在する歴史・文化資源を説明案内する活動をしている団体に対し、さらなるボランティアの養成などを行うため、必要な支援を行う。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
観光を通じたまちづくりを担う人材育成プログラム「むこう観光スタートアップ講座」のガイド班から、市民団体「古都のむこうまちブラガイド」が発足し、現在6名で活動中。 自主事業として向日市を巡るガイドツアーを実施。その他の活動として、他団体や地元の高校からの依頼でスポット案内の実施した。また、市と共同で観光パンフレットを作成し、まちあるきルートを監修するなど、本市の歴史・文化資源の案内やPRに取り組んだ。		
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		
状況を示す写真や資料等		
 <古都のむこうまちブラガイド>  <ガイドコース> 令和3年11月27日(土) ガイドツアーの様子  <ガイドコース> 令和3年10月31日(日)・11月27日(土) ガイドツアーチラシ		

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和3年度
		現在の状況
文化財調査、指定、保存管理(活用)に関すること		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容 重点区域内に存在する指定等文化財について、文化財の周辺環境も含めて保存活用の検討を行い、文化財指定の有無を問わず、文化財を市民の遺産として守り育てるという市民意識の醸成を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

(1) 平成31/令和元年度に貴重な歴史・文化遺産である史跡長岡宮跡の価値を確認し、その価値を維持し、次世代へと確実に継承していくことを目的とし、保存・管理・活用を行うための指針として、「史跡長岡宮跡保存活用計画」を策定した。
本年度は、本活用計画に基づき史跡長岡宮跡の内裏外郭築地地区を整備し「南内裏公園」として、内裏内郭築地回廊地区を整備し「旧上田家住宅」として供用を開始した。

(2) 本市の歴史・文化遺産全体の保存・管理・活用を行うための指針として「向日市文化財保存活用地域計画(仮称)」の策定について準備を進めた。

(3) 史跡乙訓古墳群の保存・管理・活用を行うための指針として「史跡乙訓古墳群保存活用計画(仮称)」の策定について、史跡が所在する乙訓2市1町文化財担当課で構成する「乙訓文化財事務連絡協議会」で令和2年度から協議を始めたところであり、本年度は京都市及び京都府の文化財担当課を加えた会議を開催した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	引き続き、文化財を適切に保護し活用の促進を通じ、地域振興・観光振興に努め、魅力あるまちづくりに寄与する。

状況を示す写真や資料等



整備計画イメージパース



整備計画イメージパース

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

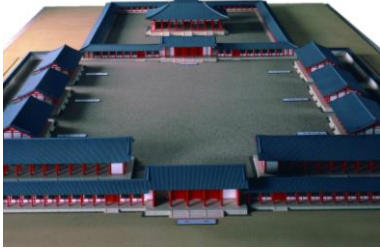
項目		評価対象年度	令和3年度 現在の状況
文化財の修理事業、文化財の周辺環境整備事業、文化財の防災に関すること			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	文化財は、火災や事故、盗難などにより消滅や毀損すれば、再び回復することが不可能になることがある。文化財の保存修理(整備)が必要な場合は、文化財の価値を損なうことなく損傷箇所などの修理を行う必要がある。文化財の所有者・管理者は、文化財の保存修理について深く認識し、施設の維持管理と修繕、周辺環境の整備、日常の保守点検の強化、関係機関との密接な連絡等を徹底し事故等の根絶を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
(1)文化財の修理事業 重要文化財向日神社本殿ほか自動火災報知器等点検補助 京都府指定文化財南真経寺開山堂・本堂自動火災報知器等点検補助 京都府指定文化財須田家住宅自動火災報知器等点検補助 上植野誓弘寺 阿弥陀如来立像、木造観音菩薩立像保存修理補助 (2)文化財の周辺環境整備 竹林ボランティアによる寺戸大塚古庵の竹林整備 (3)文化財の防災(防火・防犯等) ①文化財消防訓練 令和4年1月23日(日) 向日神社(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止) ②文化財立入検査 令和4年1月25日(火) 向日神社(実施) 南真経寺、北真経寺(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止) ③文化財・防火点検周知 市内一円の社寺に送付 ④その他 ●令和3年12月28日 市内指定等文化財の所有者管理者に年末年始の「文化財等の防火防犯の徹底について」を送付 ●令和4年1月11日 文化財防火ポスターを市内の国・府指定等文化財文化財所有者らに送付 ●令和4年1月13日 市内指定等文化財の所有者管理者に「第68回文化財防火デーの開催について」案内			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		引き続き、各種の文化財調査の修理事業、環境整備、防火防犯等の保存措置を講じる。	
状況を示す写真や資料等			
			
阿弥陀如来立像等の修理(誓弘寺)		消防設備立ち入り検査状況(向日神社)	
			
文化財防火デー啓発看板設置状況(旧上田家住宅)			

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

評価対象年度		令和3年度
項目	現在の状況	
文化財に関する普及・啓発の取組、民間団体への助成・支援や連携・協力した取組に関すること	☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	文化資料館等の施設を有効に活用し、企画の充実を図るとともに、関係施設の連携を深め、文化財の資料収集や調査研究を推進するとともに、施設機能の充実と公開活用を行い、一体的な情報発信に取り組むこととする。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
1 文化財の普及啓発の取組(展示、講座、講演会、教室等) (1)文化資料館常設展示「長岡京の歴史と文化」年間入館者数 7,771人(R3.12月末まで) (2)史跡長岡宮跡朝堂院公園史跡案内 年間見学者数 4,578人 (3)史跡長岡宮跡・旧上田家住宅史跡案内 年間見学者数 1,570人 (4)市民考古学講座(5回)・関連講演会(1回開催) 講座等参加者数 166人・講演会参加者数 38人 (5)埋蔵文化財調査成果展示会「よみがえる長岡寺～山城遷都で豹変する古代寺院～」(R3.6.19～7.25)期間中入館者1,050人 (6)埋蔵文化財調査成果展示会関係講演会「古代寺院からみた国家と地域社会」(R3.7.3) 参加者数 40人 (7)AR長岡宮の活用 ダウンロード数1,482回(累計13,441回) 貸出タブレット利用者 78人(累計5,269人) (8)墳タビ! 物集女車塚古墳の活用 ダウンロード数 645回(累計5,431回) (9)文化資料館特別展 「寿岳文章 人と仕事-向日庵と和紙の旅-」(R3.9.18～R3.10.24) 期間中入館者数 968人 「日本画家・六人部暉峰の世界」(R3.11.6～R3.12.5) 期間中入館者数 2,284人 (10)国際シンポジウム「20世紀の和紙-寿岳文章 人と仕事-」(R3.10.16) 参加者数360人 ※オンライン開催 (11)文化資料館特別展記念シンポジウム「六人部暉峰と明治期京都画壇」(R3.11.21 基調報告:文化資料館職員 パネリスト:京都市立芸術大学教授、文化庁文化財第一課文化財調査官 コーディネーター:京都大学人文科学研究所教授) 参加者数40人 (12)文化資料館テーマ展示 「写真でふりかえる昭和のまちかど」(R3.4.3～R3.6.13) 期間中入館者数 1,079人 ※R3.4.25～5.11臨時休館 「くらしのなかの戦争展」(R3.7.31～R3.9.12) 期間中入館者数 1,504人 「くらしの道具展」(R4.1.22～R4.3.21) 期間中入館者数 1,986人 (13)夏休み親子歴史教室 「つくって学ぶ、さわって感じる 和紙文化と向日庵」(R3.7.29・30 講師:NPO法人向日庵理事) 参加者数 32人 (14)日曜談話会 「広島島のブランデン詩碑と寿岳文章」(R3.8.1) 参加者数 16人 (15)古代衣裳公開研修(R3.6.27) 参加者数 28人 (16)国際シンポジウム報告(3回) 参加者数 41人 (17)歴史講座「古文書を読もう」(2回) 参加者数 85人 (18)歴史文化交流センター活用事業 「なんとなくが面白い ぶら～り向日市」 (R4.3.19 講師:向日市文化資料館長、向日市文化財調査事務所長、京都大学人文科学研究所教授、京都大学大学院工学研究科教授) 参加者数 18人 2 民間団体への助成・支援 森本遺跡保存会 文化活動補助 19,000円 3 民間団体との連携・協力 市民団体行事及び向日市まつりでの埋蔵文化財出土遺物展示 新型コロナウイルス感染防止のため中止		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		

1 文化財の普及啓発の取組



(1)文化資料館常設展示
「長岡京の歴史と文化」(通年)



(2)史跡長岡宮跡 朝堂
院公園史跡案内(通年)



(3)国登録有形文化財
旧上田家住宅案内解説風景



(3)市民考古学講座
(令和3年9月25日)



(3)市民考古学講座



(4)埋蔵文化財調査成果展示会
(令和3年6月19日～7月25日)



(5)埋蔵文化財調査成果展示会



(6)AR長岡宮の活用



(7)墳タビ！物集女車塚古墳



(10)国際シンポジウム「20世紀の
和紙-寿岳文章 人と仕事-」
(令和3年10月16日)



(11)文化資料館テーマ展示
「写真でふりかえる昭和のまちか
ど」(令和3年4月3日～6月13日)



(12)夏休み親子歴史教室「つくって
学ぶ、さわって感じる 和紙文化と
向日庵」(令和3年7月29・30日)



(13)日曜談話会「広島のパ
ラデン詩碑と寿岳文章」
(令和3年8月1日)



(14)「なんとなくが面白いぶら
～り向日市」(令和4年3月19日)

進捗評価シート		(様式1-5)
評価軸⑤-1 効果・影響等に関する報道		
		評価対象年度 令和3年度
報道等タイトル	年月日	掲載紙等
「旭米」米粉でまちおこし	R3.4.8	京都新聞
コロナ収束や平穏祈る 向日神社で「氏子祭」	R3.5.10	京都新聞
写真で振り返る 昭和の向日 市文化資料館でテーマ展	R3.5.15	京都新聞
乙訓ゆかり戦国武士が図柄 カード遊びで歴史学んで	R3.5.23	京都新聞
向日発祥「旭米」児童ら田植え	R3.6.17	京都新聞
古代寺院の変遷たどる 向日市文化資料館で出土品展示	R3.6.20	京都新聞
「西岡衆」カードゲームに 地域の教員ら制作	R3.6.25	京都新聞
古代衣服デザイン 日本文化に脈々と	R3.6.28	京都新聞
古代寺院増 行政整備と関連	R3.7.4	京都新聞
長岡京造営当初の建物跡 「市」関連公的施設の可能性	R3.7.16	読売新聞
コロナ収束願い 茅の輪くぐり	R3.8.1	京都新聞
手作り和紙でうちわ仕立て	R3.8.7	京都新聞
寿岳文章 戦時の活動伝える	R3.8.13	京都新聞
向日市役所 東京パラ聖火採火式 孟宗竹で火おこし	R3.8.18	京都新聞
寿岳文章の和紙研究知って	R3.9.10	京都新聞
旭米、たわわな実り復活	R3.10.23	京都新聞
かぐやのタベ 初オンライン 竹行灯 幻想的に3500本照らす	R3.10.24	京都新聞
旧上田家住宅 交流施設オープン 料理・ギャラリーに利用を	R3.11.24	京都新聞
師 栖鳳にささげた生涯	R3.11.25	京都新聞
寿岳文章の業績たどる 向日で国際シンポ報告会	R3.12.16	京都新聞
寿岳の和紙への情熱触れ	R3.12.22	京都新聞
忘れられた女性画家を再発見した公務員	R3.12.23	朝日新聞
向日発祥「旭米」どぶろく「魅力伝える」商品化目指す	R3.12.25	京都新聞
人つなぎ 希望の種まく 日高順子さんの一歩(市民ガイド)	R4.1.4	京都新聞
五塚原古墳 向日市埋文調査報告書	R4.1.21	京都新聞
懐かしの道具ずらり 明治～昭和の82点展示	R4.1.23	京都新聞
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
新型コロナウイルスの影響によりイベントなどは中止が相次いだが、感染症対策を講じながら可能な範囲で事業を実施することで、本市の歴史・文化資源に対する理解を深めることができた。また、令和2年11月にオープンした「向日市観光交流センターまちでらすMUKO」を基幹に地域資源や観光資源を活用したPRやイベントなどに取り組んだ。		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☐ 計画の進捗に影響あり ☒ 計画の進捗に影響なし		
状況を示す写真や資料等		

法定協議会等におけるコメント

(様式2)

評価対象年度	令和3年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 令和3年度第1回向日市歴史的風致維持向上協議会	
会議等の開催日時: 令和4年2月16日	
(コメントの概要) ○都市計画決定された阪急洛西口駅西地区について、これまで田園地帯が守られてきたが、徐々に都市化、市街地開発が進んできている。歴史的風致には用水路や田園風景も含まれていることから、歴史まちづくりとして、景観保全を支援することはできないか。 ○史跡長岡宮跡、旧上田家住宅を同時かつ一体的に整備するといった手法は、重層的に様々な時代の歴史資源が折り重なる向日市の歴まち計画ならではの素晴らしい取り組みであり、全国でも唯一と言える。先進事例としてもっとアピールしていくべき。 ○文化資料館で開催された特別展「寿岳文章人と仕事展」と併せて開催され、国内外の研究者が報告を行った国際シンポジウム(参加者:360人)や、美術研究者からも高い評価を得た「日本画家・六人部暉峰の世界」(観覧者:2,284人)はいずれもコロナ禍でありながら多くの参加者、観覧者が訪れるなど、市の新たな歴史的風致を掘り起こす非常に重要な機会となった。 ○向日市は旧石器時代から近現代に至るまで多くの歴史、文化が折り重なっている。「顕著な文化的価値」としての古代の長岡京宮、中世の日蓮宗寺院、近世の西国街道などとともに、近現代の向日庵など文化的価値の高いものが数多く存在する。また旧上田家住宅や資料館の展示は、若い方やこれまで訪れられなかった方などの新たなターゲット層を拡大することができた。	
(今後の対応方針) ○阪急洛西口駅周辺の田園地帯は、営農されている農家の方々の努力によって緑が確保されている。一方で、農家の高齢化が進み、営農が困難となりつつある。今後、保存と開発を分け、メリハリをつけたまちづくりを検討しているところ。 ○旧上田家住宅の整備、文化資料館の特別展など、各所から評価いただき、多くのメディアなどでも取り上げてもらうことができた。引き続き、しっかりとPRしていく。	